

令和6年度 新人教育計画パス

	卒後1年目看護師												2年目看護師						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月	6月	9月	11月	12月	2月	
院内研修	・新入職員オリエンテーション・接遇 ・医療安全管理対策概論 ・基礎看護技術(清潔援助・移動動作・搬送吸入・吸引・点滴・採血など) ・感染対策① ・ヘルスアセスメント ・高齢者看護 ・看護必要度 ・看護記録① ・与薬と誤薬防止 ・感染対策②(膀胱留置カテーテル)	・基礎看護技術(輸液ポンプ・シリンジポンプ) ・看護記録②(看護支援システム) ・1年目2年目合同研修(看護相・コミュニケーション) ・災害時初期行動	・放射線の安全管理 ・医薬品の取り扱い(麻薬・向精神薬など) ・3か月振り返り(夜勤前)	・輸血 ・BLS	・エンゼルケア/グリープケア	・心電図 ・6か月振り返り(固定チームナースング) ・事故発生時の対応 ・クリニカルパス	・看護過程/看護診断						・1年目2年目合同研修 (看護相・コミュニケーション)	・2年目看護技術フォローアップ研修 ・気管内挿管、二次救命処置	・看護過程/看護診断	・施設内防災訓練 院内留学(透折室・手術室・外来化学療法)		・専門職業人としてのキャリアデザイン ・新人教育課程修了式	
eラーニング	キャリアラダーⅠ認定のための必須研修の実施												キャリアラダーⅠ又はⅡ認定のための必須研修の実施						
院外研修	本部新人研修																		
病棟内での進行	・病棟内の構造の把握 ・日勤のみ ・先輩看護師と部屋持ち ・OJT			夜勤開始	・優先順位の決定		・転入受入れ(支援を受けながら) ・入院受入れ(支援を受けながら)												
技術チェックリスト	1. 療養環境技術	□環境整備 □ベッドメーカーキング □臥床患者のシーツ交換																	
	2. 食事援助技術	□食生活支援 □食事援助 □嚥下訓練 □経鼻胃管 □胃ろう □腸ろうの管理 □腸ろうの管理																	
	3. 排泄援助技術	□排尿介助 □排便介助 □排泄介助:ポータブルトイレ □グリセリン洗腸 □排便 □導尿 □膀胱留置カテーテル挿入・抜去:女性、男性																	
	4. 活動・休息援助技術	□移乗・移送:ストレッチャー、車椅子 □歩行介助 □体位変換				□関節可動域訓練 □廃用症候群の予防				□入眠・睡眠への援助 □行動制限(身体抑制・拘束) □せむしに対する看護									
	5. 清潔・衣生活援助	□全身清拭 □洗髪 □口腔ケア □入浴・シャワー浴介助 □陰部洗浄 □手浴 □足浴 □おむつ交換 □整容 □寝衣交換																	
	6. 呼吸・循環を整える技術	□酸素吸入療法 □気管吸引 □薬剤吸入 □口腔・鼻腔吸引 □体温調整 □呼吸理学療法:体位ドレナージ □人工呼吸器の装着と管理																	
	7. 創傷管理技術	□褥瘡のアセスメント・処置・予防 □創傷処置 □包帯法																	
	8. 与薬の技術	□経口与薬 □外用薬与薬 □直腸内与薬 □皮内注射 □皮下注射 □筋肉注射 □静脈注射 □輸液管理				□輸液ポンプ □シリンジポンプ □輸血の管理と実施 □輸血時の副作用 □抗生薬の用法と副作用の観察 □インスリン製剤の種類・用法・副作用の観察				□麻薬の投与・投与中の観察 □毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗がん剤の管理 □中心静脈カテーテルの挿入・抜去 □中心静脈カテーテルの管理									
	9. 救命・救急処置技術	□意識レベルの把握 □心臓蘇生法 □気管挿管の準備と介助 □止血法																	
	10. 症状・生体機能管理技術	□バイタルサインの測定 □身体計測 □静脈血採血 □検体の採取方法(尿定性) □血糖値測定				□12誘導心電図の装着と管理 □心電図モニターの装着と管理				□動脈血採血 □検体の採取方法(24時間蓄尿・中間尿)									
	11. 苦痛の緩和・安楽確保の技術	□安楽な体位の保持 □温電法 □冷電法 □リラクゼーション □精神的安寧を保つための看護ケア																	
	12. 感染防止の技術	□スタンダードプリコーション □手指衛生 □滅菌手袋の着脱 □滅菌ガウンの着脱 □感染症対策(インフルエンザ・コロナ)				□滅菌物の取り扱い □医療廃棄物の取り扱い □針刺し防止策と針刺し発生時の対応 □医療機器の洗浄・消毒・滅菌				□放射線の暴露防止									
	13. 安全の技術	□誤薬の予防 □患者誤認防止 □転倒・転落の予防 □死後のケア																	
	14. 死亡時のケアに関する技術																		
	15. 検査・治療	□経皮経肝胆道ドレナージ																	
面接	チームリーダーと面接				主任と面接				師長と面接				各職場で適宜目標管理面接						
ガイドライン	新人看護職員研修ガイドライン:看護職員としての到達目標																		
	・基本姿勢と態度についての到達目標 ・管理的側面についての到達目標				・基本姿勢と態度についての到達目標 ・管理的側面についての到達目標				・基本姿勢と態度についての到達目標 ・管理的側面についての到達目標				参考:キャリアラダーレベルⅡの定義(各部署の実践例を活用する)						
キャリアラダー	職業倫理と地域貢献																		
	レベルⅠ:厚生連職員として社会的信用の重要性を認識し、社会規範や倫理と照らして行動する。																		
	組織的役割遂行能力																		
	レベルⅠ 所属部署で割り当てられた簡単なルーティンの作業を担当する。看護チームでは自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動する。																		
	自己教育研究能力																		
	レベルⅠ:自己の課題を発見し自主的な学習に取り組む。ストレスと向き合い、助言を得て前向きに考える。自己の行動、出来事を振り返り意味づける。																		
看護の核となる実践能力(各部署の実践例を活用する)	レベルⅠ:基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。																		
	業務上のアウトカム	・病棟の構造、日勤の業務がわかる ・支援を受けながら、複数の患者を受持つことができる				・支援を受けながら夜勤ができる ・優先順位を考えながら業務ができる				・支援を受けながら、転入・入院が受けられる									
	ニーズをとらえる力	・支援を受けながらケア受け手の必要な情報が何かを知る				・ケア受け手の状況から緊急度をとらえることができる				・支援を受けながらケア受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる				レベルⅡ:ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる					
	ケアする力	・支援を受けながらケア受け手に基本的看護技術ができ、6月までに達成すべき内容を安全に実施できる				・支援を受けながらケア受け手に基本的看護技術ができ、9月までに達成すべき内容を安全に実施できる				・支援を受けながらケア受け手に基本的看護技術ができ、1年間に達成すべき内容を安全に実施できる				レベルⅡ:ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する					
	協働する力	・なんでも報告・連絡・相談ができる				・支援を受けながら医師に報告ができる ・タイムリーな報告・連絡・相談ができる				・ケア受け手を巻き取り関係者の多様な価値観を理解し、情報を共有できる ・チームの一員としての役割を理解できる				レベルⅡ:看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる					
	意思決定を支える力	・ケア受け手とコミュニケーションをとり、思いを知ることができる				・患者カンファレンスに参加しケア受け手や周囲の人の意向を知る				・患者や家族の思いや考え、希望を知ることができる				レベルⅡ:ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる					